

シドニーでタイムラプス三昧 成功したこと失敗したこと

2014年11月に30年来の星友達のY氏とシドニーヘタイムラプスツアーに出かけました。今年度は恒例のワディツァーが催行できそうに無いという読みと都会のタイムラプスはあまり誰もやっていないよね(^_^)という好奇心で、あっという間に計画が成立して実行の運びとなりました。詳細については、すでにY氏がPADに素晴らしい旅行記を掲載していただいているので、内容はそちらを見ていただくとして、本稿では初めての都会タイムラプスで感じたことを備忘録的に残すことにしました。

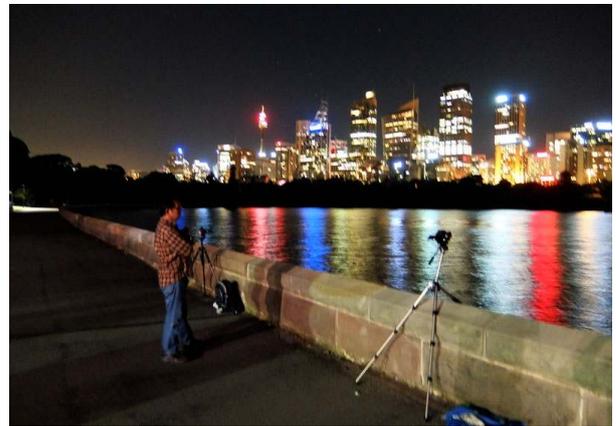
●第1夜・緩やかな夕暮れをリアルに写す

第1夜はドウズ岬公園で夕暮れの進行とともにライトアップで浮かび上がるオペラハウスとシティを撮ることにしました。夕暮れの変化を写真に撮るとき、固定絞り固定シャッタースピードで撮影すると、肉眼で感じる闇の進行よりもはるかに早く暗さが進んでしまいます。肉眼では夕闇が進むに従って目が慣れてくるので、本来、その感覚にあわせた露出の補正をする必要があります。かつては、モニターの再生画面を見ながらシャッタースピードなどを手動で調整するなどをしたこともありましたが、動画に繋がったときに暗さの変化のばらつきが多くて見た目がすこぶるよくありませんでした。熟練するというのも難しそうなので、結局、プログラムオートで撮影しながら再生画面のヒストグラムを参考に露光補正を行っていくという方法で対応することができました。

しかし、プログラムオートでは、暗くなるとレンズの絞りが開放になってしまい、いくら解像度の低い動画(ハイビジョンサイズ(200万画素)に落とすとすくなくとも、絞り開放の画像はまったくシャープ感がありません。ここは、絞り優先露出で対応すべきだったと反省しました。

●第2夜 オペラハウスのたもとで片足立ち

第2夜は雲行きが怪しかったのでカメラ1台だけを携えてオペラハウスの袂からハーバーブリッジを狙いました。第1夜も同じでしたが、視界を広く確保するためと人通りの邪魔にならないよう、できるだけ岸壁に近いところにカメラを据える必要がありました。そこでカメラの三脚の脚のうち被写体側の1本は脚を縮めて岸壁に寄りかかるようにして、手前側の脚2本だけで地面から支える感じでカメラを設置しました。(写真右上は第3夜目ですが同様)安定感が悪いのではないかと案じましたが、結構大丈夫なもので、小雨が降り出すまで、快調に撮影ができました。



●第3夜・ナノトラッカーでパンニング

第3夜はMrs.マックオーリーズ岬でオペラハウスとハーバーブリッジを狙いました。動きのある動画にするために、パンニングは常套テクニックです。幸いなことに私のナノトラッカーは駆動速度の調整が出来るので、カメラを振りたい角度と撮影時間の折り合いで速度を調整しました。ただし、ナノトラッカーは回転方向に多少のアソビがあり、通常の星景撮影では問題ないのですが、第1夜と同じように露出補正をするために撮影途中でカメラに触ったため、動画にすると画像がブレるところができてしまいました。本来的には、編集時にブレた画像の左右の位置を画像処理ソフトで修正して繋ぐべきなのですが、その手間を惜しんでそのままになっています。

また、私が使用しているNikonD5100は、カメラ本体野の機能で連続撮影を開始すると、撮影時間中はシャッター速度等の設定を変更できないので、変更時にはいったん撮影を止めなければなりません。このところは、やはりマニュアルで連続撮影すべきだったと後悔し、重量を嫌ってタイマーを持っていかなかったことを反省しました。

●第4夜・昇るオリオンとオペラハウス

最後の夜になってようやくまともな晴れになりました。やっと念願の「星とオペラハウス」を撮ることにしました。

撮影場所は第1夜と同じで構図もほぼ同じにして日没前から暮れていく空を狙いました。見込みよりもオペラハウスのライトアップが明るくて星が写るような露出時間にすると建物が白くトンでしまいましたが、やはり星が写らないと話にならないのでそのまま撮影をしました。比較明で日周運動を撮影する場合と動画作成では素材の作り方が違ってくることを感じました。

また、撮影中には船が港を往来していくのですが、シャッター速度を切り詰めて船がブレないように撮るか、撮影間隔に近いシャッター速度にして船を光跡にするかは動画にしたときに違った印象になります。出来上がった動画を見る限りでは、露出を伸ばして船を光跡にしたほうがぎくしゃく感が少ない様子でした。



●そして後日談

撮影した画像は合計ざっと25GBで、いつものSiriusCompで動画にしたところ、同じだけハードディスクの

中身が増えてしまいました。動画編集はAdobeのPremiereを使用していますが、結構重たいソフトでi5のパソコンでは息も切れ切れです。Y氏のファイルも一緒に預かって1本の動画にしたのですが、バックの音楽にはオペラハウスのそばでストリートパフォーマンスをやっていたディジュリドウのバンド(?)から10ドルで買ったCDの音楽を使用しました。

いつも気になるのは音楽の著作権のことで、今のところは狭い範囲の友人に披露する程度なので家庭内使用の範囲だと理解していますが、もっと広く、例えば観望会などでの披露などを想定すると、その辺のところはきちんとやっておかなければならないと思っています。著作権協会のHPを見ても、著作隣接権のことなど、正直、一筋縄ではいかないというか、なかなかシロウトには手が出しにくい感じです。このへんのところは、これから勉強です。

ということで、とても実りの多い撮影旅行でした。この程度のことならば国内でも十分できるのでは？というツツコミもあるかもしれませんが、普通の生活に縛られた中ではこれだけのことを集中してできません。タイムラプスをしたい風景はいろいろ思い浮かびますが、さて次は何を狙おうかな。

Books & CDs 未来の風景 SFアート10選/大橋博之・日本経済新聞

11月中旬から下旬にかけて日本経済新聞の文化欄に10回連載で表記のコラムが掲載されていました。

ハードカバーや文庫本の表紙に描かれているイラストは、その本を買う気になるかどうか重要なファクターです。

本屋でのだいたいの行動パターンはというと、①表紙が気になった本を手にとる。②裏表紙のあらすじを読む。③適当なページを開いて文章の読みやすさを確認する。④家に帰ってからAmazonでクリックする(笑)というかんじで、最初に手にとるかどうかが、その分かれ目を支配しているのが表紙の絵です。

特に、SF作品の場合は、ストーリーや世界観を連想させる役割を担っていますし、場合によっては、登場人物の容姿やメカニックの姿かたちまでそのイメージを決めています。昨今のライトノベルでは挿絵込みで作品が作られているので、そんなことはないのですが、外国のSF作品となると、元の作者のイメージが反映されているのかどうか、

たぶん、イラストレーターさんの想像力で表紙絵ができていられるので、その責任は重大であります。

そんな表紙絵について、筆者の読書経験の中で心に残っている作品を紹介するのがこの連載でした。残念ながら10回の連載の中で自分が読んだことのある本は1冊もありませんでしたが、筆者のワクワク感が伝わってくるとても楽しい読みものでした。興味のある方は図書館で新聞のバックナンバーを閲覧ください。



編集雑記

シドニーの滞在では、1日目は3万5千歩、2日目は2万9千歩、3日目は2万5千歩、4日目は1万7千歩を歩きました。宿泊したホテルからオペラハウスまでは、歩くには遠いけど公共交通機関を使うほどでもない(バス停まで行くのが回り道で中途半端)といった感じで、結局殆ど徒歩で街めぐりをしてしまいまし

た。普段は1日5千歩歩くかどうかという生活を送っているのに、健康にはすこぶる良かったのですが、やはりいささか疲れしました。でも、歩いての移動は周りの状況が良くわかって、シドニーの街がとても身近になったのが良かったです。

Kz_Wada 和田一人 Kazuto.wada@nifty.com